

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 下脇 陽子

2月20日（金） 2階D室 9:00～9:40

1 活動名 ○○のたびをわかちあう（うまれるグループ）

2 活動について

今年度「みがく」では、「旅する学び-リアルな手触り-」を学年テーマとして設定し、4グループに分かれて活動してきた。2年生になって初めて学級解体をしており、子どもたちは新しい仲間との旅を新鮮に感じているようである。筆者が担当する「うまれる」には、生き物の飼育や野菜の栽培など、自然に関心のある35名が集っている。興味によって小グループに分かれているが、困り事や嬉しい事などは、サークルで共有しながら、探究してきた（詳細は要項p. , 児童教育 p. 45-46 を参照）。

1学期。校外学習（千葉県）で出合ったオタマジャクシの飼育から活動がスタートした。オタマジャクシの成長に合わせて飼育ケースの環境を工夫しながら、「無事にカエルに育ってほしい」と小さな生き物への愛着を高めていった。失敗もあったが、何匹かは無事に成長を遂げ、逃すかどうかをみんなで話し合い、無事に元いた場所に返すことができた。

この活動をきっかけに身近な生き物への興味が高まり、子どもたちは学校の山、畑、大学キャンパスにある草地などを探検し、カナヘビ、ヤモリ、カブトムシ、ダンゴムシなどを見つけ、飼育や観察を始めた。本やインターネットで世話の仕方を調べたり、より良い方法をみんなで話し合ったりしながら生き物に関わることで、「生き物が死なないようにもっと詳しく知りたい」「飼育ケースを本物の自然に近づけたい」「元気がなさそうだからそろそろ逃してあげよう」など、生き物の視点に立って考える声が出てきた。また、「外来種」や「絶滅危惧種」といったことばにも出会い、生き物にも複雑な問題があるということを知り、何かできることはないかと考え始めた様子である。

一方、植物に関心のある子どもたちは、野菜や花に関するグループを作り、「自分たちで育てたい」という思いをもち、主に校内の畑で栽培活動に取り組んできた。9月に開催した学年行事「流しそうめん」では、自分たちで育てた野菜を使って出汁を作るなど、学年全体で味わうことも経験している。実際に土を触りながら自然と関わっている。

このように、子どもたちはそれぞれの「やってみたい」思いが実現するように友達と協力しながら活動に取り組んできた。一方、教師は、一人ひとりの思いに寄り添い、飼育や栽培などの活動をともに楽しみながら環境を設えてきた。具体的には、ドキュメンテーションの作成、校外学習の実施等である。

一年間をふり返って、学びを見つめる3学期。自分たちはどんな旅をしてきたのか。本時ではサークル対話を行い、互いに声を聞き合うことで、自分（たち）と自然との関わりについて見つめ直したい。

3 学習活動計画（13時間目／全18時間）

- 第1次 1・2学期をふり返り、3学期に取り組みたいことを考え、共有する。 …2時間
第2次 グループ別に「やってみたい」思いを大切に活動する …10時間
第3次 一年間の旅をふり返る。 …本時1/6時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

一年間の活動をふり返り、一人ひとりの具体的なエピソードを共有し、学んだことを分かち合うことを通して、自分（たち）と自然との関わりについて見つめ直す。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. サークルの形に集まり、今日の問いを共有する。 どんなたびをしてきたか分かち合おう。 ・・・わたしは、○○のたびをしてきたよ。	- 具体的なエピソードを想起できるように、一年間の旅の履歴を子どもとともに写真や絵、ことばでまとめておく（常時掲示） - 落ち着いて話せるように、事前にWSに自分の考えを整理しておく。 - うまく言えないときには上手に質問し合うなど、互いの顔を見て話を聞き合う雰囲気を大切にする。
2. それぞれの思い、考えを分かち合う（サークル対話）	
3. ふり返りを書く。	